

南アフリカ タイのリンゴ市場へのアクセスを取り戻す

[FreshPlaza 2025年2月5日](#)

南アフリカ共和国のジョン・ステーンハイゼン農業大臣は、南アフリカからタイ王国への生鮮リンゴの輸出市場アクセスを取り戻したと発表した。この市場は、取引相手国の要件の変更により、約16年間(2008年1月から2024年12月まで)閉鎖されていた。

同大臣は、「リンゴは、その外貨収益と雇用創出を考えると、南アフリカで栽培されている最も重要な落葉果実の1つである。南アフリカのリンゴ産業は輸出志向で、生産されたリンゴの約半分が輸出市場に吸収されると述べている。Hortgro(園芸生産者協会)によると、南アフリカのリンゴ輸出は過去10年間で40%急増したが、これは主に、現在、南アフリカのリンゴ輸出全体の約35%を占めている極東とアジアへの輸出によるものである。2023年には、合計3万2,397人の労働者が農場で雇用され、12万9,590人の扶養家族が恩恵を受けた。同大臣は、「輸出需要を満たすために生産量を増やすことは、特に果実や野菜などの労働集約的なセクターでより多くの雇用につながるほか、農産物加工、梱包、物流でも雇用の機会を増やすことができる」と付け加えた。

南アフリカ共和国からタイ王国に輸出されるすべての生鮮リンゴは、合意により適用されるすべての植物検疫要件を満たす必要がある。また、果実には、タイが懸念する検疫害虫 - 南アフリカからタイへの生鮮リンゴの輸出に関する最終的な植物検疫輸入条件に列記されている - がいてはならない。タイにリンゴを輸出することを希望する商業的果樹園、梱包施設、及び輸出事業者は、農業・土地改革・農村開発省(DALRRD)によって承認・登録されなければならない。これらの登録果樹園は、効果的な総合的病害虫管理及び果樹園の衛生管理を含む農業生産工程管理を実施する必要がある。

南アフリカ共和国からタイ王国への生鮮リンゴの輸出に関する最終的な植物検疫輸入条件は公表されており、DALRRDの[ウェブサイト](#)からアクセスできる。

台湾 マレーシア等にポンカンを輸出

[FreshPlaza 2025年2月5日](#)

台湾の台中市政府は、ポンカンを国際的に売り込んでいる。台湾は最近、1本のコンテナで15トンのポンカンがマレーシアに輸出した。クアラルンプールでの販促イベントでは、これらのポンカンがマレーシアの市場関係者に紹介された。

代表団には、駐マレーシア台北経済文化弁事処の章遠智氏チャンユンジーと石岡区農民協会の傅裕欽氏フエーユーチンらが参加した。ポンカンは台中市の主要な輸出品で、収穫期は11月から2月であり、1,388ヘクタールで年間2万5,045トンが生産される。主な産地は、東勢、石岡、豊原、后里、新社、北屯の各区である。

台中市の気候と土壌条件は、鮮やかな外皮とバランスの取れた味など、ポンカンの特徴に寄与している。市の農業局は、高品質果実の栽培と多様な販売戦略を促進するために、コンテストを開催している。同局のホアン・ユーチュン氏は、農業団体や農家との協力により台中市のポンカンが認知されていることを強調した。

今年の輸出先は、シンガポール、マレーシア、ブルネイ、香港、日本、カナダである。ポンカンは、ポンカンシュリンプ(極柑蝦)などの料理やポンカンチーズケーキ、ポンカンプリン等のデザートで台湾の食卓に溶け込んでいる。果実の丸い形は繁栄を象徴し、世界の中華系市場にアピールしている。

マレーシアの中国人コミュニティを引き付けるため、農業局は地元の複数の団体と協力し、「台中市政府農業局優質農特産品商標」のラベルが付されたギフトボックスでポンカンを輸出している。このギフトボックスは、主要なスーパーマーケットで入手できる。さらに、RTパストリー社は限定商品のマンダリンパン(極柑麵包)を製造した。

出典: [The Star](#) (参考サイト: [台中市政府農業局](#))